

報道関係各位

Tokyo Midtown Award 2013 ニュースレター第 3 号

次世代を担うアーティスト・デザイナーを発掘・応援する、東京ミッドタウンの取り組みをお届けします！

デザインコンペ募集開始！今年のテーマは「まん中」

7 月 1 日(月)～7 月 29 日(月)必着

アートコンペ公開 2 次審査会および夏の特別ワークショップ開催情報も！

東京ミッドタウン(事業者代表 三井不動産株式会社)は、街のコンセプトである「JAPAN VALUE(新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街”を目指す一環として、毎年、アートコンペとデザインコンペからなる「Tokyo Midtown Award」を開催しています。過去 5 回の開催で、延べ応募者数約 6 千組の中から、アートコンペでは 21 組、デザインコンペでは 45 組の受賞者が生まれ、活躍の場を広げています。

本ニュースレターでは、7 月 1 日(月)から始まるデザインコンペの概要や審査員のコメント、過去の受賞者の近況に加え、7 月 22 日(月)に実施するアートコンペ公開 2 次審査会の概要や今後の「Tokyo Midtown Award 2013」の見どころをあわせてご紹介します。

<目次>

1. 「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペ募集開始！7 月 1 日(月)～7 月 29 日(月)必着
2. デザインコンペ審査員からのコメント
3. デザインコンペ過去受賞者のコメントと近況 鈴木啓太さん(2008 年度デザインコンペ受賞者)
4. アートコンペ公開 2 次審査(7 月 22 日(月))開催情報！
5. アートコンペこれまでの受賞者とのコラボワークショップ開催情報！

1. 「Tokyo Midtown Award 2013」デザインコンペ募集開始！7 月 1 日(月)～7 月 29 日(月)必着

6 月 6 日(木)にアートコンペの募集が終了し、7 月 1 日(月)から、いよいよデザインコンペの募集が開始されます。今年のテーマは「まん中」。人が出会い、文化が出会う都心のまん中。才能が交差して、新しい価値が生まれる。そんな「まん中」にふさわしいデザインを募集します。

東京ミッドタウンでは、受賞アーティスト・デザイナーにさらなる活躍の場をご提供できるよう、回を重ねるごとにコンペティション後の支援を強化してきました。今年度、デザインコンペ受賞者に対して引き続き商品化サポートを実施する他、グランプリ受賞者を、香港で開催される「Business of Design Week 2013」へ招待します。

<デザインコンペ 賞金・受賞者支援策の詳細>

●賞金 グランプリ(1 点)100 万円、準グランプリ(1 点)50 万円、優秀賞(1 点)30 万円、審査員特別賞(5 点)各 5 万円

※各賞については「該当なし」となる場合があります

●商品化サポート

受賞作品には東京ミッドタウンが商品化へのサポートを行います。過去に 6 作品がミッドタウンのサポートで商品化されています。

●「Business of Design Week 2013」への招待

グランプリ受賞者を、香港で開催される「Business of Design Week 2013」に招待します。「Business of Design Week 2013」は、香港デザインセンターが主催するアジア最大のデザイン総合イベントで、現在の社会やビジネスにおいてデザインが重要になるという考えに基づき、革新的で優れたデザインを振興するとともに、デザイナー達に活力を与える場を提供しています。

※詳細はオフィシャルサイト(<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>)をご参照ください。

〒107-6205 東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー5F Tel : 03-3475-3141/Fax : 03-3475-3144

東京ミッドタウンマネジメント株式会社

2. デザインコンペ 審査員からのコメント



photo by Hiromi Shinada

■ 小山薫堂 / Kundo KOYAMA

(放送作家 / 脚本家)

回を重ねるほどに、審査時の楽しみが増しているミッドタウンデザインアワード。今回のテーマが「真ん中」と聞いただけで、ワクワクしてきました。今までの中で最も抽象的なテーマだからこそ、デザインの視点や企画力が問われます。審査員に「やられた！」と言わせるような作品、お待ちしております。ちなみに、僕が「真ん中」についてアドバイスできるとするならば、米沢名物「牛肉どまん中」という駅弁は本当にウマイ！ということくらいでしょうか。



■ 佐藤 卓 / Taku SATOH

(グラフィックデザイナー / 佐藤卓デザイン事務所 代表取締役)

際立っているものは、際にある。ふつう、まん中は際立たない。だから、まん中で際立っているものをつくるなどということが、はたしてできるのでしょうか？ そんなことを考えても面白いんじゃない？



photo by: Seiji Tonomura

■ 柴田文江 / Fumie SHIBATA

(インダストリアルデザイナー / Design Studio S 代表)

まん中は何処にでもあるし、そこにしかない。定義の仕方でもどのようにでもなるものだから、定義がデザインだと言える。なんてワクワクするテーマだろう。過去の受賞作品やアワードの傾向にとられることなく「自分自身がまん中だ！」それくらいの気概を持った、しびれるような提案に出会えることを楽しみにしています。



■ 原 研哉 / Kenya HARA

(グラフィックデザイナー / 武蔵野美術大学教授 / 日本デザインセンター 代表)

「まん中」は人気がない。だいたいみんな「端」が好きだ。保守本流より少し斜に構えた傍系の方がクールだと、みんな思っている。まん中はかっこわるいし居心地が悪い。ファッションもアートも、昔から事件性や逸脱が王道なのである。だからこそ、この難しい「まん中」を狙ってほしい。針の穴を通すような正確なコントロールか、あるいは偶然的中か。まん中の、さらにどまん中を射抜くのは、はたしてどんな才能か。



photo by Eiki Mori

■ 水野 学 / Manabu MIZUNO

(アートディレクター / クリエイティブディレクター / good design company 代表 / 慶應義塾大学特別招聘准教授)

企業はいつの頃からか、市場調査を行い、商品を作るようになった。それを全て否定するわけでは無いが、弊害も生まれた。その一つが「差別化の乱用」である。調査では、少し変わったものが票を集めやすい。つまり、企業が差別化に注力するあまり、ど真ん中の商品が生まれづらくなってしまったのだ。そうした動きを、僕は「市場のドーナツ化」と名付けている。ドーナツの穴のど真ん中を射抜いてくれるような作品の応募を期待しています。

3. デザインコンペ 過去受賞者のコメントと近況

■ 鈴木啓太さん(すずき けいた)

2008 年度デザインコンペ審査員特別賞受賞(「富嶽百九十三景」)※受賞後、「富士山グラス」として発売
プロダクトデザイナー/PRODUCT DESIGN CENTER 代表

1982 年愛知県生まれ/2006 年 多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒業/株式会社 NEC を経て 2009 年-2012 年
イワサキデザインスタジオ所属、2012 年 PRODUCT DESIGN CENTER 設立

● 人生の転機となった「富士山グラス」



「Tokyo Midtown Award」に応募したきっかけは、審査員が著名な方たちばかりのコンペティションで自分の実力を試したいということと、メーカーではなくミッドタウンという商業施設が主催するコンペだということに興味を持ったからです。「商品化を前提とする」と唱うコンペのビジョンにも惹かれました。

受賞作品である「富士山グラス」のアイデアは、「THE 日本」と呼べるものをテーマにし、日本人が好きなモチーフと、海外から見た際の「日本」を抽出し、それらを掛け合わせることで生まれました。その後、東京ミッドタウンとデザインコンペ審査員も務める good design company の水野学さんの手厚いサポートにより商品化することができました。富士山グラスは、ガラス業界の革命児とも言われ、今も多くの人に愛され続けるデザインになりました。

● 今年の春に、水野学氏と中川淳氏と共同で「THE」を設立

「THE」は、「面白いものやカッコイイものではなく、本当に欲しいものを作りたい」との考えから、前述の水野学さん、中川政七商店の中川淳さんと、私の 3 人でスタートしたブランドです。「THE」と呼べる商品にするために、デザインだけでなく、流通までを手がけられる仕組みを取っていることが特徴です。今年の 3 月には、丸の内の「KITTE」4 階に「THE SHOP」をオープンさせました。「THE」では、一緒に定番を作っていけるコラボレーション企業を随時募集しています。



▲「THE GLASS」: THE

● 今後の展開

“製造産業と社会との触媒になる”をテーマに掲げ、一次産業から二次産業まで、様々なプロジェクトに関わっています。最近では、富山県高岡市で始まった「RED&WHITE」、菅原工芸硝子株式会社の「虹色風鈴」を手掛けました。北海道からブータンまで、農水産業、地場産業、大手メーカーとの製品開発など「プロダクト」と呼べるもの全てのデザインに関わっています。



▲「虹色風鈴」/ Niji-iro fu-rin : 菅原工芸硝子株式会社

■ 大ヒット中の「富士山グラス」!

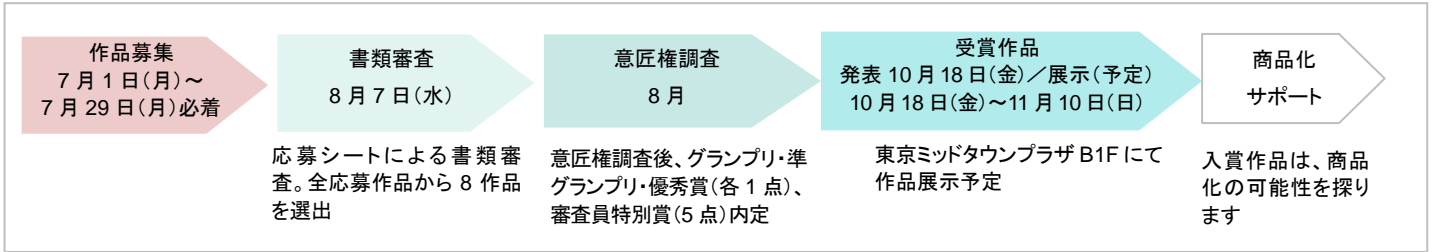


【商品名】富士山グラス

【価格】3,776 円(税込み) 【販売】菅原工芸硝子株式会社

2008 年度審査員特別賞(水野学賞)を受賞した「富士山グラス」。世界中どこにいても日本を意識できる、ドリンクを注ぐと富士山ができてあがるグラスです。赤富士や黒富士など注ぐものによって様々な表情を見せます。繊細なフォルムは、日本トップレベルの技術を持つ菅原工芸硝子の職人さんがひとつひとつ丁寧に手作りされています。審査員・水野学氏デザインの桐の木箱入りで豪華な仕様です。

■ デザインコンペ審査の流れ



デザインコンペでは、「まん中」をテーマに、7月1日(月)からデザインの募集を開始します。応募作品は8月7日(水)に実施される書類審査を経て、9月上旬に受賞作品8点が内定します。書類審査も報道関係者の皆様に公開させていただく予定です。



昨年の書類審査の様様

4. アートコンペ 公開2次審査(7月22日(月))開催

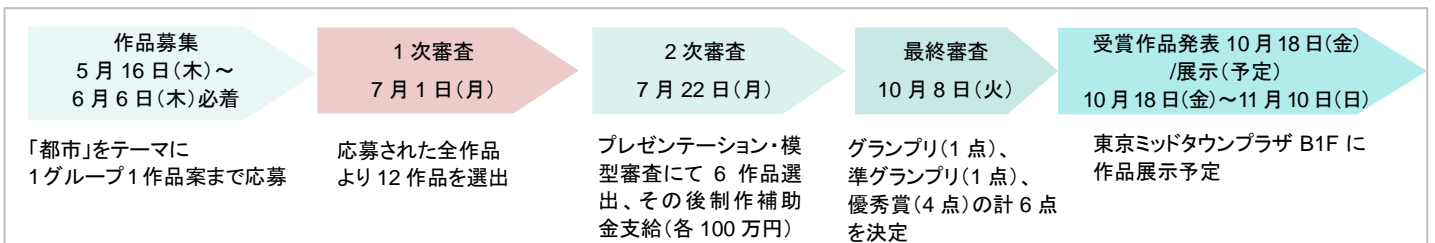
6月6日(木)に募集を締め切ったアートコンペ。今年度は応募作品数が293点と昨年より52点増加しました。今後は、7月1日(月)の1次審査を経て7月22日(月)に2次審査を行います。この2次審査は、報道関係者様とウェブ(<http://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>)でお申し込みいただいた一般の方(先着50名様)に公開します。

2次審査では、1次審査を通過した12作品の応募者が模型を用いてプレゼンテーションを行い、最終審査に進む6作品を決定します。審査では入選作品を選ぶだけでなく、よりよい作品づくりへのヒントを与える機会として、審査員からの作品に対するアドバイスはもちろん、審査員と応募者との間で白熱したディスカッションが展開されることもあり、育成型コンペを目指す「Tokyo Midtown Award」の見所でもあります。(取材をご希望の方は事前にご連絡ください。)



昨年の公開2次審査の様様

■ アートコンペ審査の流れ



アートコンペでは、6月6日(木)に応募を締め切りました。7月1日(月)に1次審査を行い12作品を選出します。7月22日(月)の2次審査では、応募者による公開プレゼンテーション及び模型審査を行い、最終審査に進む6作品を決定します。最終審査進出者には制作補助金100万円が支給され、東京ミッドタウンのプラザB1Fにて実際の作品を制作・展示します。その後、10月8日(火)の最終審査で各賞が決定します。

5. アートコンペ これまでの受賞者とのコラボワークショップ開催情報!

夏休み真っ盛りの7月19日(金)～9月1日(日)の期間、東京ミッドタウンでは、「なつやすみ キッズが楽しむミッドタウン」と題して、東京ミッドタウン各所で、親子で楽しめる様々なキッズプログラムを開催します。そのプログラムのひとつ、「デザイン・アートであそぼう!～夏のわくわくワークショップ～」の中で、「Tokyo Midtown Award」のアートコンペ受賞者による特別ワークショップを開催します。

【名称】デザイン・アートであそぼう!～夏のわくわくワークショップ～

【期間】8月10日(土)～8月18日(日)

※アートコンペ受賞者特別ワークショップは16日(金)～18日(日)

【時間】11:00～19:00

【場所】アトリウム

【料金】無料(素材によっては有料)

【主な対象】未就学児～小学生

【主催】東京ミッドタウン



(アートコンペ受賞者特別ワークショップ)

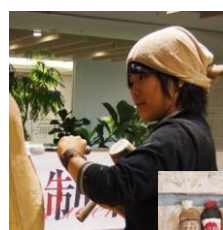
■ 山本麻璃絵 (やまもと まりえ)

(Tokyo Midtown Award 2009 佳作、オーディエンス賞受賞/彫刻家)

開催日:8月16日(金)

タイトル:マイ木彫あきかんをつくろう

空き缶の形をした木の彫刻に、色鉛筆、クレヨン、マジックなどの画材を用いて子供達が思い思いに色塗りをして、自分だけのあきかんのオブジェを作ります。



イメージ

■ 大村雪乃 (おおむら ゆきの)

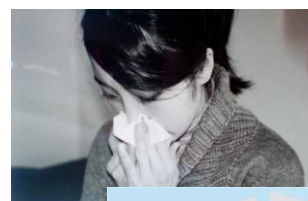
(Tokyo Midtown Award 2012 入選、オーディエンス賞受賞/アーティスト)

実施日:8月17日(土)

タイトル:可愛い動物たちの絵をシールで色とりどりに描いてみよう!

文具の丸シールを使ったワークショップです。予め動物の絵の下書きが描かれた台紙(A4サイズ)にそれぞれ好きにシールを貼ってもらい、可愛い動物たちの絵を作ります。出来上がった絵はその場でスキャンして印刷。原本は持ち帰ることもできます。印刷した動物の絵柄をワークショップ会場の壁に次々と貼って展示する予定です。

協力:株式会社ニトムズ



イメージ

■ 栗 真由美 (くり まゆみ)

(Tokyo Midtown Award 2011 入選、オーディエンス賞受賞/現代美術家)

実施日:8月18日(日)

タイトル:ペーパーミニハウスをつくろう

まずは紙でできた小さなおうちを組み立てます。そこに色紙や東京ミッドタウンで使われていたチラシをつかって、屋根をペタペタ貼ってオリジナルのミニハウスをつくります。



イメージ